

キャラクター名
五十鈴 依代 (いすず いよ)

プレイヤー名

シンドローム	バロール		ワークス	ハッカー	カヴァー	煙草屋のお姉さん
	バロール					
オプション			年齢	23	性別	女
覚醒	憤怒	衝動	自傷	初期侵食率	33	%
出自	結社の一員	経験	研究	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	0	0	2			2	行動値	11
感覚	2	0	1			3	(非装備時)	11
精神	4	1	0			5	戦闘移動	16
社会	2	0	0			2	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		RC	5		交渉	1	
回避	2		知覚	1		意志			調達	1	
運転：普通車マニアル	1		芸術：			知識：	2		情報：裏社会	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
「肉を砕いて骨を断つ(ザ・ブッチャー)」	RC	5r+5		+6		RC。黒の鉄槌2+《コンソルトレイト：バロール》1

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
着古した白衣	0	0	0	0	

所持品	
コネ：研究者	
iPhone114514	
マールポロ・ゴールド・オリジナル	
ヘヴィマシガン	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
霧谷雄吾	P 信頼	N 隔意		
フィン・ブースロイド	P 執着	N 疎外感		
八重上 海嘉 (やえがみ みか)	P 好奇心	N 憎悪		
城岳 頂者 (ジョウガク チョウヤ)	P 好奇心	N 憐憫		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
《コンソルトレイト：バロール》	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果： 判定のクリティカル値-LV (下限値7)								
黒の鉄槌	2	1	メジャー	視界	-	RC対決	-	
効果： 攻撃力：+[LV*2+2]								
斥力障壁	1	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果： ダメージ軽減：[1D+LV*2]。1回/1R								
暗黒螺旋	1	3	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 白兵ガード時[LV*5]ダメージ。1回/1R								
コアミックインフレーション	1	2	セットアップ	-	範囲(選択)	-	ピュア	
効果： エフェクトの対象を範囲(選択)に								
ダークマター	1	2	マイナー	自身	自動	-	-	
効果： 自身のバロール以外達成値に+LV								
灰色の庭	1	2	セットアップ	単体	自動	-	-	
効果： 1ラウンド対象の【行動値】-[LV*3]								
ポケットディメンション	★	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果： 憧れの2LDK。プライスレス								
ディメンションゲート	★	3	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果： ゲート作成。外見自由。								
偏差把握	★	-	メジャー	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果： 周囲の物の位置・バクトルを把握。隠れているものを見つける際には<知覚>判定。								
帝王の時間	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 何というか、誰にも邪魔されず…… (ry								
効果：								
効果：								

五十鈴依代、22歳女性。
身長152cm体重47kg、Cカップ非処女。

父親は早くして逝去、母親は女手一つで娘である自分を育てていた。
貧しい家庭環境ではあったが、娘に不自由はさせまいとする母親に興味の道具を揃えて貰い、それに応えるように必要以上の我儘は口にせず母を助ける良い娘であった。

彼女が中学2年の頃、彼女の母親が頻りにどこかへ出かけていた事を知った依代はその後を付ける。
そこで母親が「フリーメイソン」なる組織に所属している事を知る。
その活動は至って健全で、ボランティアを行うような団体であった。

しかしある時代依代の元を数名の男が尋ねてくる。
彼等は廃ビルへと彼女を誘拐、拘束する。
聞こえてくる言葉は「例のウイルス」「覚醒」「危険」といったきな臭いものばかり。
不安がこみ上げる依代。精神の限界に達した彼女が信頼する母親の名を呼ぼうとした瞬間、目を塞いでいた布が取り払われる。
光が戻った視界に写ったのは、今しがた名を呼び、救いを求めようとした愛する母の姿であった。

依代は激怒した。「裏切り」に憤怒を剥き出しにして怒り狂った。
その奇烈な激情の熱は彼女自身の自我と理性を焼き切って衝動を暴露させたのであった。

そして彼女が自我を取り戻した時には誰彼の姿は無く、沈みゆく夕日と、潰れ抉れた大地の上に自分一人が立ち尽くすばかりであった。